

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第37週	第36週	第37週		第36週		第37週		第36週		第37週		第36週		第37週		第36週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	7	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	10	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	72	64	4	0	6	0	2	0	2	0	0	0	0	2	0	4	0	
感染性胃腸炎	106	139	50	11	53	11	48	6	53	5	0	1	0	2	2	4	0	4
水痘	16	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
手足口病	45	25	5	1	7	2	5	1	7	1	0	0	0	1	0	0	0	0
伝染性紅斑	3	3	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発疹	23	44	5	0	8	0	4	0	6	0	0	0	0	0	1	0	2	0
ヘルパンギーナ	245	227	3	2	9	5	3	0	5	0	0	2	0	0	0	0	4	5
流行性耳下腺炎	11	7	3	3	0	1	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1
RSウイルス感染症	185	187	14	2	22	1	10	0	14	0	0	2	0	1	4	0	8	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0		0		0
流行性角結膜炎	28	20	1	1	0	0	1	1	0	0		0		0		0		0

※平成30年1月1日より百日咳が全数把握疾患となりました。また、風しんの届出が「診断後7日以内」から「診断後直ちに」と変更になりました。
 ※平成30年5月1日より急性弛緩性麻痺が全数把握疾患となりました。

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況	
<p>流行中</p> <p>＜RSウイルス感染症＞ RSウイルスの感染による呼吸器感染症です。症状は軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p>	<p>※飛沫感染 患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことで感染します。マスクの着用や咳エチケットを実施してください。</p> <p>※接触感染 細菌が付着した手で口や鼻に触れることで感染します。手洗い、うがい、頻りに人が触れ場所(ドアノブ等)についての環境整備など基本的な対策を徹底することが必要です。</p> <p>※糞口感染 接触感染の一種。便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染します。排泄後の手洗い、オムツの適切な処理が必要です。</p>
<p>小流行中</p> <p>＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞ A群レンサ球菌による上気道の感染症です。菌の侵入部位や組織によって多彩な臨床症状を引き起こします。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p> <p>＜感染性胃腸炎＞ 食品や飲料水をとおり経口的に細菌、ウイルスなどの病原体が腸に感染してさまざまな消化器症状を引き起こす病気です。</p> <p>＜ヘルパンギーナ＞ 発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎であり、乳幼児を中心に流行します。感染経路は接触感染を含む糞口感染と飛沫感染です。</p>	

インフルエンザの発生状況

○全国ではインフルエンザによる休校も！

- インフルエンザ施設別発生状況の調査によると、第37週で休校1校、学年閉鎖3校、学級閉鎖19校となっています。昨年の同時時期には休校2校、学年閉鎖6校、学級閉鎖22校であったため、昨年と比べると少ない状況です。



○インフルエンザの流行に備えましょう

- 福島県内では第37週で7名と患者報告数は多くはありません。
- 1 定点当たりのインフルエンザ患者報告数が1.00を超えると流行開始の目安となります。昨年は第48週で1.00を超えました。
- 感染経路は飛沫感染と接触感染です。飛沫感染対策としてマスク着用や咳エチケット、接触感染対策として手洗いや手指衛生といった基本的な対策を徹底することが必要です。外出より帰宅した際は手洗い・うがい等を心がけてください。
- インフルエンザの予防接種を受けてから抗体ができるまでに期間がかかります。今後の流行に備え、予防対策に努めましょう。

麻しん発生



○三重県で2人目の麻しん発生報告がありました

- 平成30年8月31日に三重県内の医療機関から麻しんの発生届が提出されましたが、9月11日に三重県内の医療機関から麻しんの発生報告が提出されました。
- 初発患者(20歳代外国籍の女性)に接触歴のある者(20歳代日本国籍の性)が発症しています。
- 麻しんは感染力が強く、空気感染するため、手洗い・マスクのみでは予防することができません。感染を防ぐ最も効果的な方法は予防接種を受けることです。

麻しん・風しんの予防接種を受けましょう

○麻しん・風しんに感染しないためには予防接種が有効です

- 麻しん・風しんの治療には特効薬がないため、感染しないようにすることが重要です。
- 麻しん・風しんは定期的予防接種となっています。
- 定期予防接種以外にも自己負担で予防接種をうけることは可能です。希望される場合は主治医に相談しましょう。

この情報に関するお問い合わせ先: 県中保健福祉事務所 医療薬事課 感染症予防チーム

TEL: 0248-75-7818 E-mail: kenchu_kansensyoyobou@pref.fukushima.lg.jp